

第9回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成27年9月8日（火） 15:00 - 16:20

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、中須賀委員、中村委員、松尾委員、薬師寺委員、山崎委員

(2) 政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、松井宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、高見宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙産業・科学技術基盤に関する工程表のフォローアップ

資料1、資料2に基づき文部科学省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。（ ）：質問・意見等 （ ）：回答）

H3 ロケットの固体ロケットブースターとのシナジー効果を発揮できるような、イプシロンロケットの将来形態についての検討はどのような状況か。
イプシロンロケットの将来形態の検討は、H3 ロケットの基本設計の影響を受けるので、H3 ロケットの基本設計と並行して作業を進めている。H3 ロケットの基本設計が終了次第、イプシロンロケットの将来形態についてフロントローディングの作業や必要な予算の要求に取り組んでいきたい。
H3 ロケットの基本設計を進める際には、イプシロンロケットへの影響も念頭に置いて作業を進めるべき。

部品の品質管理は重要である。H3 ロケットの開発にあたっては、民間の知見を活かして、部品の品質管理にしっかり取り組むべき。

H3 ロケットは、ユーザーニーズを踏まえたものとなるようこれまで開発が進められてきた。今後、H3 ロケットの開発が本格化すると、ユーザーニーズへの意識が薄れがちになるので、今後もユーザーニーズをしっかりと意識しつつ取り組むべき。

革新的衛星技術実証プログラムは、ピギーバックでの打ち上げとは異なり個別に軌道を設定できる良い施策である。経済産業省で検討が進められている部品に関する技術戦略や、宇宙システム海外展開タスクフォース等とも連携し、より有効に活用するべき。

(2) 宇宙システム海外展開タスクフォースの設置について

資料3、資料4に基づき内閣府から説明を行った。

(3) 国際宇宙ステーション計画の検討について

資料5、資料6に基づき内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。(: 質問・意見等)

宇宙ステーションに関連し、諸外国に様々な動向がある中で、アジア諸国を取り込んでいくという考え方はよいと思うので、検討を進めるべき。

宇宙政策委員会が取りまとめた見解に沿って、しっかりと検討や調整を進めていくべき。

以 上